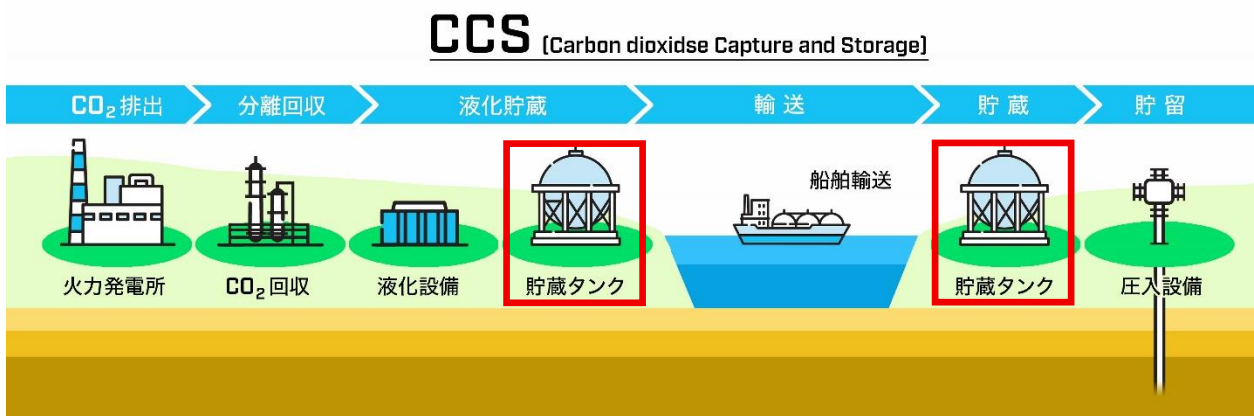


液化 CO₂ 貯蔵用球形タンクの EPC に関する協業契約を台湾企業と締結 ～ CCS・CCUS の普及促進に貢献 ～

カナデビア株式会社は、このほど、台湾のプロセス機器メーカーである 良 聯 工業股份有限公司（高雄市、以下、良聯工業）と、CCS（Carbon dioxide Capture and Storage：CO₂ 回収・貯留）や CCUS（Carbon Capture, Utilization and Strategy：CO₂ 回収・有効利用・貯留）に必要な液化 CO₂ 貯蔵用球形タンクの EPC（設計・調達・建設）に関する協業契約を締結しました。

現在、日本を含む多くの国々が 2050 年までにカーボンニュートラルの実現を目指す「カーボンニュートラル 2050」を目標に掲げており、その達成のためには CCS や CCUS が重要な役割を担うと考えられています。日本においても独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）が国内で複数のプロジェクトを「先進的 CCS 事業」として推進・支援しています。

しかし、CCS・CCUS の社会実装のためには液化した CO₂ を貯蔵するためのタンクが必要であり、貯蔵タンクの製造能力が課題とされています。液化 CO₂ の貯蔵タンクには球形や円筒形のタイプがありますが、当社は従来からの技術で対応可能な円筒形タイプに加え、球形タンクの設計、建設に多くの実績を有する良聯工業と EPC に関して協業契約を締結することで、液化 CO₂ 貯蔵用のタンク事業に積極的に取り組みます。



【CCS の流れ】

当社が EPC を検討する液化 CO₂ 貯蔵タンクは、1 基あたり 1,000～6,000 トン規模を想定しています。日本政府は、2030 年までに年間 600～1,200 万トンの CO₂ 貯留量を目指しており、タンクについても一定数の需要が見込まれます。

当社は、約 100 年にわたり圧力容器事業を手がけており、極厚の鋼板の曲げ加工や溶接、組立、据付に高度なノウハウを有しておりますが、「カーボンニュートラル 2050」の達成に向け、CCS・CCUS や石炭・石油の代替となるアンモニアなどの新燃料向けに必要な貯蔵用タンクの製造や建設等を通じ、次世代技術の社会実装に貢献していきます。



【協業契約締結に関するセレモニーの様子】

なお、本件の概要は次のとおりです。

1. 契約先：良聯工業股份有限公司（台湾・高雄市）
2. 内 容：当社 営業・プロジェクト管理等
良聯工業 設計・組立ノウハウの提供等
3. 期 間：2025 年 7 月～2027 年 7 月

(終)